事業所における自己評価結果【児童発達支援センター】

公表:令和6年3月1日

事業所名:社会福祉法人療育自立センター寝屋川市立あかつき・ひばり園

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			国の設備基準は満たしていますが、引き続き、活動スペースの確保に努めます。
	②	職員の配置数は適切であるか	○			職員の配置数は国の人員基準より多い配置をしており、引き続き、子どもの状態と課題を職員間で共有し適切に関われるよう工夫を重ねていきます。
	③	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、子どもの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか		○		肢体不自由児クラスの出入り口や保育室間の段差の解消を図るなど、順次改修工事をすすめています。 施設の老朽化により十分対応できない部分もありますが、廊下の修繕等にも取り組んでいます。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか		○		床やトイレの改修工事などを行い改善を図りました。施設が古く暗い印象になっていますが、掃除や消毒を徹底し清潔に努めています。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクルに広く職員が参画しているか	○			クラス・係単位で話し合ったことを各グループで議論し、職員会議で最終確認して療育活動に取り組み、園を運営するというプロセスは定着しています。さらに、全職員面談を実施し職員参画を進めています。
	⑥	保護者等向け評価表により保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに保護者等の意向等を把握し業務改善につなげているか	○			保護者による事業所評価だけでなく、保護者会からの要望書、運営協議会（保護者会役員と園の代表で構成）での協議など、幅広く意見を集約し業務改善の努力を行なっています。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			自己評価結果については全保護者に文書で報告するとともに、ホームページで公開しています。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	○			平成28年度、平成30年度、令和４年度と定期的に受審し、業務改善につなげています。
	⑨	職員の資質の向上を行うために研修の機会を確保しているか	○			外部講師による園内研修を感染症予防対策を講じた上で実施するとともに、派遣研修やオンライン研修で行っています。引き続き、研修内容・方法等を精査し、職員の資質の向上に努めます。
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○			アセスメントを通じて子どもの状態や保護者のニーズを適切に把握し、支援内容を精査して児童発達支援計画を作成しています。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準されたアセスメントツールを使用しているか	○			
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	○			児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の支援内容等をふまえ、子どもの状態と課題をクラス及び関係職種で検討して作成しています。より作成しやすく、保護者にも分かりやすい児童発達支援計画の作成に努めます。
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	○			子ども一人ひとりの個別支援計画をクラスや関係職種で話し合いながら作成し、その計画に基づき取組を具体化し支援を行なっています。

	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			各クラス単位で検討し立案することを基本としています。
	⑮	活動プログラムが固定化されないように工夫しているか	○			子どもの状態と課題をふまえ、全身活動、手指の活動、見る・聞くの活動のバランスを考え、取組内容が固定化されないような配慮に努めており、例えば、ホールの遊具の設定を毎回変えるなどしています。また行事に応じたねらいをもって設定に工夫を加えたり、季節ごとの取り組みを行っています。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成しているか	○			
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			支援開始前には療育計画を基本に週案や日案を職員間で検討し、支援内容を踏まえた各々の役割や担当を明確にして取り組んでいます。
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか	○			園全体に係る会議等を調整しながら、支援の基本単位であるクラスの会議を可能な限り確保できるよう工夫し、毎日振り返りを行うよう努めています。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	○			
関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○			
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	○			必要に応じて母子保健や子育て支援等の関係機関との連携を図り支援を行っています。
	㉓	（医療的ケアや必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	○			医療機関、訪問看護ステーション、子育て支援課、保健師などと連携して支援を行なっています。
	㉔	（医療的ケアや必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	○			園の嘱託医とも相談し、主治医の意見とあわせて支援の方向を確認しています。
	㉕	移行支援として、保育所や認定子ども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○			保護者の同意を前提に、移行支援として事前と事後に引継ぎを行い、情報共有を図っています。
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○			保護者の同意を前提に、移行支援として引き継ぎを実施し、情報共有を図っています。
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○			発達障害者支援センター主催の研修等に対面やオンラインなどで参加し受講しています。
	㉘	保育所や認定子ども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	○			新型コロナウイルス感染症の影響で実施を見合わせていた市立保育所との交流保育を今年度から再開しました。交流保育は大切な機会であり継続実施したいと考えています。
	㉙	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	○			自立支援協議会等にオンラインを含めて参加し、児童発達支援センターの状況等を報告しています。

	㉚	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			個人懇談や生活記録表、電話等により子どもの状態についての共通理解に努めています。
	㉛	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家庭支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っているか	○			子育て教室（発達、言語、作業療法、健康管理、食事、福祉制度、就学など）を行なっています。また、日頃から保護者支援を大切に取り組んでいます。
保護者への説明責任等	㉜	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			契約時に重要事項説明を行い、運営規程や利用者負担等についての丁寧な説明に努めています。
	㉝	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	○			個人懇談を通じて確認しています。
	㉞	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			個人懇談や生活記録表、電話等により子どもの状態についての助言に努めています。
	㉟	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○			新型コロナウイルス感染症への対応の変更と感染状況も踏まえつつ可能な範囲で取組を再開しています。また、運営協議会（保護者会役員と園代表で構成）も年10回開催しました。
	㊱	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			相談や申し入れがあった際にはできるだけ迅速に個別対応を行なうよう努めていますが、クラスや係で連携してより迅速かつ的確に対応できるよう取り組んでいきます。
	㊲	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○			各クラスで月ごとの予定を配布するとともに、「つばさだより」の年3回の発行やホームページ、YouTubeなどを通じて情報発信に努めています。また、必要に応じてバスキャッチメールで保護者全体に情報発信を行なっています。
	㊳	個人情報の取り扱いに十分注意しているか	○			個人情報の取り扱いは十分注意すべき事項であることを改めて確認し、事務所の整理・整頓と管理を徹底するなど、引き続き、意識の向上に努めていきます。また、個人情報が含まれる配布物については入れ間違いが無いように徹底します。
	㊴	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			子どもに応じたコミュニケーションの方法を具体的に検討しています。保護者に対しては、状況に応じて書面や口頭説明で補足するとともに、連絡アプリ（バスキャッチ）も適宜活用し情報伝達に努めています。
	㊵	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか		○		今年度は新型コロナウィルス感染症の状況を考慮しバザーは実施できませんでしたが、夏祭りは園内行事として実施しました。

非常時等の対応	㊶	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定して訓練を実施しているか	○			各マニュアルは策定済みで必要に応じて改訂し職員に配布するとともに、保護者にはマニュアルを保護者室に置き閲覧できるようにしています。 防犯訓練や防災訓練（地震避難訓練・消防訓練）については、年間計画に位置付けて実施するとともに、運営協議会でも報告しております。
	㊷	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			火災や地震等の避難訓練について、園全体では規模を縮小して避難訓練を２回、大地震を想定した地震訓練を１回実施しています。また、各クラス単位で毎月1回を基本に地震等を想定した避難訓練を実施しています。実施状況はホームページに掲載するとともに「防災だより」も発行しています。今後、状況を見ながら保護者も参加できる園全体の訓練が実施できればと考えています。
	㊸	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか	○			保健係が確認しています。また、緊急時の薬の対応に関しても確認しています。
	㊹	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○			栄養士・保健係で確認し、クラス全体で周知した上で、食事テーブルを個別にして対応しています。
	㊺	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			ヒヤリハット事案があった際には、全体に周知するため、毎朝の職員会議等で報告し、事例集を作成し職員室に貼り出しています。
	㊻	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			虐待防止委員会を毎月開催し具体的な取組を検討するとともに、施設内虐待と児童虐待に関する研修を実施しました。
	㊼	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了承を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	○			身体拘束等適正化委員会を虐待防止委員会と一体的に設置・運営し具体的な取組を検討・確認するとともに、多職種で支援計画を検討し、身体拘束についても保護者と確認を行っています。また、全職員を対象に研修を実施しました。